



① 【たんがら】

物を背負って運ぶための籠かごです。口が広く逆円錐形をしています。

② 【せんばこき】(千歯扱き)

櫛くしのような歯いばほの部分で、稲穂などから粳もみを分ける脱穀だつこくの道具です。江戸時代後期に全国に普及し、歯も竹製から鉄製へと変化していきました。



③ 【とうみ】(唐箕)

せんばこきで分けた粳もみから、(1)正常な粳もみ、(2)空粳からもみなどの未熟な粳もみ、(3)藁わらやゴミなどに選別する道具です。上の枡ますに入れた粳もみを少しずつ落としながら、取手を回して風をおこします。(1)~(3)の重さの違いを利用して選別しました。



④ 【かまど】(竈)

囲炉裏とは別に、かまども使われることがありました。粘土を使って作られることが一般的ですが、④は地元の石材(国見石)を加工して作られています。養蚕ようさんの繭まゆを煮る作業などにも使われました。